



2012.5.1

5月 ちとせだより

神戸 YMCA ちとせ幼稚園

新年度が開始され、2ヶ月目を迎えました。今子どもたちは、幼稚園での時間をどの様に感じているでしょうか。進級した子どもたちは、新しいクラスの仲間や先生に興味を示していますし、新入園児の子どもたちの中には、自分の思い通りにならない不満を感じていたり、親がそこにいないことにまだ不安な気持ちを感じていたりする子どももいます。しかしまた、親の目がなく自由な気持ちを味わっている子どももいます。

現代の若者はよく、「～記念日」という日を決めて、その日を特別にイベントとして楽しんで過ごすという話を聞いたことがあります。より何かを楽しみたいという気持ちなのかも知れませんが、毎日の日常生活の中では楽しみを見出せず、満足出来ていない状況があるのかも知れません。同様に、子どもたちにとっても、毎日の日常生活をどう楽しむことが出来るようになるのかは大きな課題です。「つまらない。何をして遊べばいいの?」と言う子どもたちは、きっと自分で遊びを見つけ広げていく経験を十分にしていないのでしょう。与えられる楽しみや精巧なおもちゃばかりに接していると、自分で毎日の生活の中に楽しみを見つけ、工夫して遊びを広げていくことは出来ません。また、大人から指示ばかりされていると、子どもは「次は、どうするの?」と聞くようになりますし、与えられる課題が多すぎると、「これでいいの?」と常に評価と判断を求めるようになります。

子どもたちにとって、幼稚園とは指示された通りに行動し、与えられた課題をこなす場所でありません。幼稚園は家庭とは異なり、親の目や指示はなく子ども自らが主体的に関わっていく、子どもたちにとっての日常生活の場でもあります。そこでは、子ども自身が自分で考えて判断し、行動することが求められますし、そうであるからこそ与えられた楽しみではなく、自ら楽しみを見出す力が養われるのです。そして、その楽しみも個々人の興味や関心によっても異なるものであり、それが認められる環境であるからこそ自分自身に対する自尊心も育まれていくのです。

また、親にとっての子育てという日常生活も、ある人は子どもとの生活を楽しみ、子どもの成長を喜ぶことが出来ますが、別のある人にとっては子育てを苦痛と感じ、その毎日の子育てから解放されたいと思っているかも知れません。自分の思い通りにならない子育てに戸惑い、子どもをかわいいと感じられなくなる親がいることも事実です。きっと子どもにはこうあって欲しいと願う気持ちが強かったり、他の子どもと比較ばかりしたりして、ありのままの我が子を受け入れられない親がそこにいるのでしょうか。そんな親子の関係は、親子共々に楽しいものとは言えず、決して幸せなものではないでしょう。

日常の生活の中で、飽きることなく遊ぶということは、幼児期の子どもにとって最も大切にされなければならない経験です。そんな子どものあるがままの姿を喜び愛することが出来る大人でありたいと思いますし、毎日を喜びと感謝をもって過ごせる人間でありたいと思います。

年主題 「あふれる愛 小さきものとともに」

5月主題 「感じる」

聖句 “わたしがここにおります。わたしを遣わしてください。”
(イザヤ書6章8節)